全国高等学校ビジネスアイディア甲子園

高齢者 事故から救いたい

ビジネス甲子園 矢板東高生V

新しい商品やサービスを提案する「第23回全国高等学校ビジネスアイディア甲子園」（大阪商業大学、毎日新聞社主催）で、県立矢板東高校2年の小沢樹子さん（16）、大山明さん（17）の「高齢者と自動車事故から救う『ガルドシート』」が63・05点の応募作品の中からグランプリに輝いた。小沢さんは「最終目標は実用化」と夢を膨らませる。【有田浩子】

3人は高校の授業（総合的な探究の時間）で、興味のある「医療系」のゼミを選択し一緒に活動を始めた。

創想のきっかけは今年8月、福岡県で路線バスと軽乗用車が衝突し、7歳と5歳の姉妹が死亡した事故。腹部をシートベルトで強く圧迫された「シートベルト損傷」により死亡したとされる。小沢さんの問題意識を深めたのは、シートベルトの構造を取り入れた、身長などによって座面の高さを調整できるシートの上下だった。

筋力が落ち、体格が大きくなる高齢者にも、子どもと同じようなリスクがあるのではないかと考え、高齢者のシートにも応用できないかと思ったという。

第1案のデザイン完成後、さらに詳しく知るため、「探究」学習主任の星野広之教諭（34）にすすめられた「腹部など圧迫防ぐ『補助カーシート』」を読み、シートベルトの専門家や医師に話を聞いてアイデアを練めていった。

チャイルドシートと同様、シートの固定金具を連結するだけで取り付けられるアイソフィックスを採用し、前と横にくっつけるためのアースターミネーターを使用するなどの構造を考案した。

その間、他の医療系のコンテストにも応募し、評価を受ける中で、高齢者のプライドを尊重し、自然と乗りたくなるようなおしゃれなデザインに知恵をしぼった。全体のフォルムに丸みを出したり、色も選べるようにしたりした。また、価格も5万円としていたのを2万4000円に抑えた。

「ガルドシート」の「ガルド」はラテン語で「守る」の意。当初考えていたネーミングは、製品型AI（人工知能）「チャットGPT」を使って、高齢者の体の仕組みについて知ってもらう機会になったと話した。

グランプリ受賞に大山さんは「自信につながった。進みたいと思っていたので、高齢者の体の仕組みについて知ってもらう機会になった」と話した。

アイデアだけでなく、実際に作ったものを提案したグループもあったが、星野教諭はコンセプトが絞られ、シートベルト損傷に関わる人に実際に話を聞けたことも加えて説得力が増した」と応援を感じたという。

「デザインを考える中でコンセプトが絞られ、シートベルト損傷に関わる人に実際に話を聞けたことも加えて説得力が増した」と応援を感じたという。

グランプリ受賞に大山さんは「自信につながった。進みたいと思っていたので、高齢者の体の仕組みについて知ってもらう機会になった」と話した。

決勝は4組が出場。アイデアを膨らませる中で「シートベルトの構造を理解してもらえるようにしたい」と話した。

腹部など圧迫防ぐ「補助カーシート」

前列左から大山樹子さん、小沢樹子さん、大山明羽さん、後列は星野広之教諭・矢板市の矢板東高校で

「目標は実用化」膨らむ夢

2被告 懲役2年求刑

間バイト 益子住居侵入未遂

地裁支部

宮都宮市中心部で相次ぐ強盗などの2件、9月に益子町の住居に侵入しようとしたとして、住居侵入未遂罪に問われた佐々木花梨（22）と森健太郎（26）の両被告の公判が20日、宇都宮地裁栃木支部（横沢勇治裁判官）で開かれ、検察側が懲役2年を求刑し、弁護人は執行猶予付きの判決を求め結審した。判決は来年1月16日に言い渡される。

この日、被告人質問に立った佐々木被告は、SNS（ネット交流サービス）を通じて「闇バイト」へ応じ理由について問われると、住居侵入相手へプレゼントがしたかったと。すぐに、お金が手に入ると思い行動に移してしまった。現在の心境を聞かれると「犯行の仕方は）バカだと思う。普通に仕事をしたかった」と後悔の念を口にした。

検察側は論告で、実行犯グループの指示役とされる男が担当していたことに触れ、「闇バイト」に関わろうとする人が、犯行に加わった場合に厳しい処罰を受けることを認識できるようにすることが重要だ」と指摘した。

弁護側は、両被告が犯行に加わった経緯を「闇バイト」の募集に応じ、指示役と接触し指示を受けて犯行に及んだとして「組織的かつ計画的な犯行」と指摘した。

裁判官は、両被告の犯行は、強盗致傷罪などに当たるとした上で、「犯行に及んだ動機は、金銭を得ようとしたが、近隣住民に発見され未遂に終わった。犯行の結果は重大だ」と述べた。

懲役2年の求刑に対し、両被告は「（刑務所に）行くことになったと思う。（犯罪に）関わらないようにしたい」と話した。【地主一生】

「産業の優位性喪失」

連合栃木 特定最低賃金で懸念

連合栃木は26日、今年度の特定最低賃金（地域別最低賃金）の高い水準で定められることが必要と訴えた場合、産業ごとに設定される県内では自動車、電子部品・デバイス、ゴム製品などの製造業、食料品製造業などの業種が地域別の最低賃金を上回っており、産業の優位性が失われる。人材確保が困難になるなどの懸念があると述べた。【有田浩子】

記者会見する中島一実・連合栃木会長（前列中央）＝県庁で

県議会 34議案可決

間バイト防止策 国に要望

12月定例県議会最終日の26日、本会議で県内のSNS型ロマンス詐欺の被害額は5億7・3億円に上ると、また、SNS上で高額年齢を9・5万円に上ると、また、欺の被害額は5億7・3億円に上ると。また、SNS上で高額年齢を9・5万円に上ると。また、うたって特殊詐欺のみならず強盗など凶悪犯罪の実行者を募る闇バイトについては「我が国の重大な脅威」と指摘した。

国の重大な脅威」と指摘した。

県は、「闇バイト」防止策として、国に要望した。

提出の「一般会計補正予算案など33議案」と議員提出の「犯及び口腔の健康づくり推進条例」など2件は共産党を除く賛成多数で可決した。

常任委員会で大採択された「特別支援学校の寄宿舎の充実に向けた効果的な設置を求める陳情」は、県内で特別支援学校の寄宿舎の設置を求める陳情2件は共産党が異議を申し立て本会議で反対討論を行ったが不採択となった。

◇　◇

可決された意見書の一つはインターネットやSNSを利用した犯罪被害の防止対策を国に求めたもの。

今年10月に未現在の県議会議員の政務活動費（政活費）を使って視察した県議会議員の政務活動費（政活費）を使って視察した県議会議員の政務活動費（政活費）を使って視察した